2011年度
活動報告書

第１部　2011年度 東日本大震災復興支援に関するボランティア・NPO 活動センター活動概要

第２部　2011年度 ボランティア・NPO 活動センター活動概要

龍谷大学ボランティア・ＮＰＯ活動センター

―2011（平成23）年度報告書目次―

2011年度　ボランティア・NPO活動センターをふりかえって …… 3

1．2011年度活動報告

第1部　東日本大震災復興支援に関するボランティア・NPO活動センター活動概要　5

ボランティア・NPO活動センター　2011年度の東日本大震災復興支援の取り組み …… 6

●東日本大震災　復興支援活動 …… 8

○はじめに

○東日本大震災　復興支援募金活動

○東日本大震災　復興支援プロジェクト　福島県の物産品販売

○東日本大震災　復興支援ボランティアガイダンス

○東日本大震災　復興支援ボランティア報告会＆ミーティング

○東日本大震災　復興支援ボランティア

○東日本大震災　復興支援プロジェクト　“おがつ店こ屋街がやってくる！～雄勝物産品販売～

○東日本大震災　復興支援フォーラム「震災復興に果たす大学の役割」

○龍谷大学吹奏楽部コンサートin南三陸町

○東日本大震災一周忌法要修行におけるパネル展

第2部　ボランティア・NPO活動センター活動概要 …… 27

ボランティア・NPO活動センター　2011年度の取り組み …… 28

●ボランティアコーディネート …… 29

○ボランティアコーディネート集計

○外部団体来室内容と広報依頼件数

○団体登録制度とボランティア募集情報シート

●情報提供・センターの広報 …… 32

○チラシ配架やポスターの掲示

○ボランティア・NPO活動センター通信

○講義やゼミ（演習）でのボランティア・NPO活動センター紹介

○メールマガジン配信

○ホームページ

●学内におけるボランティア活動の実践と参加のきっかけの提供 …… 34

○伏見月間カレンダー

○リユース傘貸し出しプロジェクト

○出張ボラセンin大宮

○深草広報誌「ボラゴン」

○「茶道部 東日本大震災のチャリティーお茶会」の支援

○絆 ～共に考える東日本大震災～

○Re－キャッププロジェクト

○瀬田広報誌「Volunteer News」

○忘れやんとこ！3.11～わたしたちにも出来ることはあるんやで！～

○Let's ボランティア　～ボランティア紹介します～

○グローバルなワークでワックワク！～震災から多文化共生をThinking～

○サークル登録制度（サークル＆ボランティア活動　情報交換会）

●活動を通じた地域との連携　～学生と地域をつなぐ～ …… 50
○丸屋町商店街のまちづくり活動へのボランティア協力（ナカマチ土曜夜市 in 丸屋町）
○丸屋町商店街のまちづくりの活動へのボランティア協力（大津祭宵宮イベント）
○大津祭へのボランティア協力
○くさつ子どもフェスタ2012
○ボラセン秋のまちまつり
○伏見区野宿者支援プロジェクト

●共催・協力事業 …… 58
○スタディツアー合同説明会
○第１回 AIDS 文化フォーラム in 京都の後援
○JICA 研修生へのセンター事業紹介
○地域イベントなどへの出展・協力

●体験学習プログラム　～国際社会や地域の課題に目を向け、視野を広げる～ …… 64
○2011年度海外体験学習プログラム【夏季】
・中華人民共和国「私からはじめる緑の再生」
・タイ王国「体感！多文化共生の生活－タイ北部の国境地帯を訪ねて－」
・ベトナム社会主義共和国、カンボジア王国
「自分と、未来を変える旅～ベトナム・カンボジアが私たちにくれるもの～」
○2011年度海外体験学習プログラム【春季】
・タイ王国「スマトラ島沖地震大津波から７年。津波被災地の今を訪ねる。津波復興タイ感ツアー」
・フィリピン共和国「貧困の中で生きる人々と出会い、向き合う旅」
・ネパール連邦民主共和国「世界の屋根ヒマラヤの国　環境を守る『バイオガスプラント』支援活動」
○2011年度（ボランティア等）体験プログラム報告会

●ボランティアリーダー育成事業 …… 84
○ボランティア入門講座
○ボランティアリーダー養成講座
・「チームビルディング　チームを運営するにはコツがある！～グループ・チーム内の運営とそのマインドを学ぶ～」

●センターを運営する学生スタッフの育成 …… 87
○2011年度オリエンテーション合宿
○夏合宿
・深草キャンパス
・瀬田キャンパス
○春合宿
・深草キャンパス
・瀬田キャンパス

２．龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター規程 …… 93

３．2011年度龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター名簿 …… 95

４．2011年度の主な新聞記事等 …… 97

1．2011年度　活動報告

第１部

東日本大震災復興支援に関するボランティア・NPO 活動センター活動概要

第２部

ボランティア・NPO 活動センター活動概要

2．龍谷大学ボランティア・NPO活動センター規程

制　　定　平成13年３月１日
一部改正　平成15年５月15日
平成17年７月21日
平成19年９月27日

（設　置）
第１条　本学にボランティア・NPO活動センター（以下「センター」という。）を置く。
（目　的）
第２条　センターは、営利を目的としないボランティア活動を通じて、相互に学び合うサービスラーニングという共生の理念を具現化し、本学の教育研究に寄与することを目的とする。
（事　業）
第３条　センターは、前条の目的を遂行するために、次の事業を行う。
(1)　ボランティア・NPO活動を通じた人材育成及び教育支援に関する事項
(2)　本学の教育研究活動とボランティア・NPO活動との連携に関する事項
(3)　本学の教育研究に相応するボランティア・NPO活動の環境整備に関する事項
(4)　その他、ボランティア・NPO活動センター委員会が必要と認めた事項
（役職者）
第４条　センターに、次の役職者を置く。
(1)　センター長　１名
(2)　副センター長　２名
（センター長）
第５条　センター長は、センターの業務を統括し、センターを代表する。
２　センター長は、専任の教育職員の中から、学長が指名する。
（副センター長）
第６条　副センター長は、センター長を補佐し、センター長が事故ある場合又はセンター長が欠けた場合は、センター長の職務を代理又は代行する。
２　副センター長は、専任職員の中からセンター長が推薦し、学長が委嘱する。
（委員会）
第７条　センターは、第３条に規定する事業を運営するために、ボランティア・NPO活動センター委員会（以下「委員会」という。）を置く。
２　委員会の構成は、次のとおりとする。
(1)　センター長
(2)　副センター長
(3)　センター長の推薦する専任職員　若干名
(4)　センター事務部長
３　委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。
（任　期）
第８条　センター長、副センター長及び委員会委員の任期は２年とし、再任を妨げない。
（委員会の招集）
第９条　委員会は、センター長が招集し、議長となる。
（事業報告）
第10条　センター長は、センターが実施した事業について、毎年、学長に報告書を提出しなければならない。

（事　務）

第11条　センターの事務を処理するために、ボランティア・NPO活動センター事務部（以下「センター事務部」という。）を置く。

2　センター事務部に、必要な事務職員を置く。

付　則

この規程は、平成13年４月１日から施行する。

付　則（平成15年５月15日第11条改正）

この規程は、平成15年４月１日から施行する。

付　則（抄）（平成17年７月21日題名、第１条、第３条、第７条、第11条改正）

1　この規程は、平成17年７月21日から施行する。

この規程は、平成19年10月１日から施行する。

3. 2011年度　龍谷大学ボランティア・NPO活動センター名簿

センター委員

松島　泰勝（センター長　経済学部・教授）
金子　裕一郎（副センター長　経済学部・教授）
和田　恭幸（文学部・准教授）
横山　勝英（経営学部・教授）
山田　容（社会学部・准教授）
古川　秀夫（国際文化学部・教授）
谷垣　岳人（政策学部・講師）
阪口　春彦（短期大学部・教授）
石川　達也（事務次長）
内藤　多恵（REC事務部）
山川　正司（保健管理センター）
浦田　優子（理工学部）

事務スタッフ

大石　洋史（課長）
竹田　純子（コーディネーター）
竹村　光世（コーディネーター）
西島　有恒（コーディネーター）
ヒギンズ　尚美（コーディネーター）

学生スタッフ（2011年度　計91名）

〈深草学舎　40名〉

佐伯　健志（法学５）竹本　真梨（法学４）横関つかさ（法学４）平形　　駿（経済４）
田中　大樹（文学４）松本美紗子（経済４）佐々木美央（文学４）増見　知香（法学４）
藤澤　良介（経済４）片岡　華絵（文学３）髙井　慧大（文学３）本多　美里（文学３）
西村　泰徳（法学３）池上　眞平（法学３）水口　祐奈（文学３）池内　亮太（法学３）
井筒　智隆（文学３）上田　智史（経営３）真鍋　　元（法学３）板野　裕子（文学２）
岩佐　芙美（短大２）義岡　　夢（短大２）篠原　成生（経営２）上田亜祐美（文学２）
宮林　　嵩（法学２）丹治　里名（文学２）高松　秀樹（法学２）二川　紀子（文学１）
前田　剛志（政策１）北川　亮輔（文学１）根縫　凌馬（政策１）峰松　優丞（文学１）
後迫　治基（経済１）奥野　悦子（短大１）竹田　伊織（短大１）杉田あずさ（文学１）
宮岸　李奈（政策１）熊倉　エリ（政策１）廣瀬　令奈（政策１）冨永　玄哲（政策１）

〈瀬田学舎　51名〉

高田　靖人（社会４）佐々木　綾（社会３）歌藤　智弥（国際３）小島　正盛（社会３）
玉置友圭子（国際３）深水　雅士（社会３）笹渕　賢人（理工３）谷川　大樹（理工３）
古川　　諒（社会３）乾　　良輔（理工３）藤田　華保（社会３）上野　由理（社会３）
吉田　潤平（社会３）細谷　勇介（社会３）香月　郁美（社会３）辻川　智世（国際３）
田中千紗音（国際３）羽村　美咲（社会３）藤森のどか（社会３）月田　　恵（社会３）
三浦　千佳（社会３）栗原　啓拓（社会２）天野　暁裕（理工２）青木　　大（理工２）
徳冨　貴子（国際２）菱本　柚香（国際２）杉山麻由香（国際２）吉田　裕貴（国際２）
河内　直之（国際２）西牟禮智美（社会２）岡田　太貴（理工２）安藤　弘憲（理工２）

日原　千尋（社会２）馬場眞貴子（国際２）佐藤　麻耶（国際２）安平　昂志（社会２）
松野　　嵩（国際２）山本　美帆（国際２）近藤　晨吾（理工１）諸岡　龍馬（社会１）
河嶌　倫子（社会１）岸本　　慧（理工１）新子　翔平（社会１）藤村　由香（社会１）
田邊　　岬（社会１）森口　堅右（社会１）北岡なつみ（社会１）南　伸之介（社会１）
岡本　和也（国際１）若松　隼平（社会１）深田　修介（国際１）

学生の力 今こそ生かせ

龍大・大谷大 被災地へボランティアバス

仙台拠点 泥だし作業など

長期的な支援が求められている東日本大震災の被災地で、今こそ学生の力を生かそうと、龍谷大と大谷大が6月から、大学独自で現地へボランティアバスを運行することを決めた。仙台市を拠点に、被災住宅の泥だし作業などを行う。

龍谷大は、6～8月に各1回ずつ、学生と教職員計20～30人を貸し切りバスで派遣する。仙台市にある西本願寺のボランティアセンターと宿泊施設を拠点に、6、7月は週末、休暇に入る8月は1週間程度活動する。

来月から大学独自

4月下旬に大学が実施したボランティア説明会に学生約220人が参加するなど現地活動の希望は多く、大学独自で実施を決めた。6月上旬に深草キャンパス（京都市伏見区）、瀬田キャンパス（大津市）で東北地方の物産の販売会も計画している。

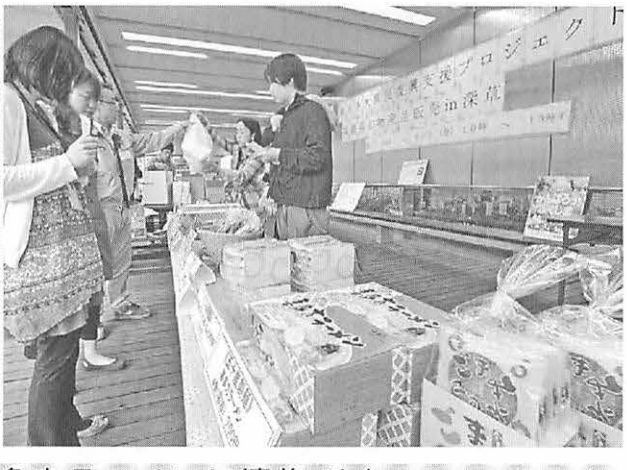
龍谷大の田中則夫副学長は「大学としても被災地への長期的な支援が求められており、活動への参加を呼びかけたい」と話している。

大谷大は教職員が企画し学生にも参加を呼びかけた。6月3～6日の日程で計約20人を現地に送る。仙台市の東本願寺のボランティアセンターを拠点に、津波の被害を受けた住居の泥をかきだす作業などを行う。

学業や仕事を休まないことを前提に、金曜夕に出発し月曜朝に帰京する車中2泊の「弾丸ツアー」だが、すでに定員はいっぱいで、7月にも派遣する予定という。

（江藤均）

2011年5月25日　京都新聞



福島県への支援を呼びかけ、キャンパスで販売された喜多方ラーメンなど同県の特産品＝1日午前10時20分、京都市伏見区・龍谷大＝撮影・辰巳直史

喜多方ラーメンに漬物、せんべい…

"うまいもん"食べて福島応援

東日本大震災と原発事故で苦境が続く福島県を「喜多方ラーメン」など同県の特産品を買って応援する催しが1日午前、京都市伏見区の龍谷大深草キャンパスで始まった。学生らは「買い物で支援を」と呼びかけ、キャンパスを訪れた市民が商品を買い求めた。

龍大ボランティア・NPO活動センターの企画でNPO法人JIPPO（下京区）が協力した。福島県観光物産交流協会を通じ、漬物や菓子など17種類の商品を取り寄せた。

龍大で販売会

午前10時の販売開始から学生や教員、市民が列をつくり、「現地の力になれば」と商品を選んだ。せんべいを購入した宇治市の高見洋平さん（25）は「福島県のおいしいものを食べることで、少しでも支援できれば」と話していた。

商品を販売した龍大4年の平形駿さん（21）は「自分ができることから始めて、長く続けたい」と力を込めた。売り上げは全額被災地に送る。3日まで。午前10時～午後1時半。6～8日は大津市の瀬田キャンパスで行う。

（江藤均）

2011年6月1日　京都新聞

震災復興 大学の役割は

伏見・龍谷大 ボランティア考える

学生らを前に、宮城県石巻市でのボランティア活動について報告する同市社会福祉協議会の阿部さん（京都市伏見区・龍谷大）

龍谷大が主催する東日本大震災復興支援フォーラム「震災復興に果たす大学の役割」が22日、京都市伏見区の同大学深草キャンパスで始まった。初日は約80人の学生らが被災地のボランティア活動などの報告に耳を傾けた。

宮城県石巻市社会福祉協議会の災害復興支援対策課長補佐、阿部由紀さんは被災者の心情に寄り添ったボランティア活動を強調した。妻を亡くした男性の被災住宅の片付けを、あえて少人数で時間をかけて行い、男性の要望を丁寧に聞けるように調整した事例などを報告した。

阿部さんは、同市災害ボランティアセンターを通じて活動したボランティアについて、「京都からの参加者が7月は全国で最多だった」と感謝し「復興はまだ始まったばかり。温かく見守ってほしい」と締めくくった。

龍谷大の学生は、募金活動や福島県物産展の開催、現地での被災家屋の片付けや側溝清掃の様子を紹介した。

23日まで。同日午後1時半から、石巻専修大の学長の講演や龍谷大教授らによる討論を行う。無料。（梶井進）

2011年10月23日　京都新聞

被災地 厳冬

京の学生ら温か支援

冬を迎えた東日本大震災の被災地への支援活動が、京都の大学で続いている。龍谷大では13日、宮城県石巻市雄勝町の物産市がキャンパスで始まった。立命館大は今月下旬に岩手県遠野市にボランティアバスを走らせ、学生がサンタとなって仮設住宅を回る。

雄勝町特産の硯や乾物類などを販売する物産市（京都市伏見区・龍谷大深草キャンパス）

龍大 石巻物産市や泥洗い

立命大 遠野でボランティア

龍大は雄勝町にボランティアバスを2回出し、学生が日本一の生産量があった硯の石材約1万3千枚を洗った。

地元の商店主たちが再興した市場「おがつ店こ屋街」に協力、すずりや昆布、わかめスープなど28点をキャンパスで出張販売することにした。

13日は京都市伏見区の深草キャンパスで販売、すずりの泥を洗い落とした法学部3年遠見優斗さん(22)は「現地はがれきが一部残るが、がらんとしていた。1個でも買って生活再建に協力を」と呼びかけていた。

物産市は、14日は大津市の瀬田キャンパス、15日に京都市下京区の大宮キャンパスで午前11時半～午後1時半に行う。

立命館大は21～27日と28日～来年1月3日にバスを運行する。現地のNPOと連携し、太平洋沿岸の被災地でクリスマスプレゼントを届けたり、餅つきなど年末年始の催しを盛り上げる。家族や友人を失った被災者が孤独感を深めないよう、学生たちがサポートする。

立命館災害復興支援室は「現地には若者が少なく、学生がいるだけで活気が出てくる。春休みもバスを走らせて、支援を続けたい」と話している。（松浦吉剛）

2011年12月14日　京都新聞

福島の特産品 食べて支援を

東日本大震災

福島の特産品販売では、喜多方ラーメンが人気だった＝伏見区

東日本大震災からまもなく3カ月。1日、被災地支援の動きが各地であった。

福島第一原発の事故で風評被害に苦しむ被災者を応援しようと、龍谷大の学生や下京区のNPO団体「JIPPO」は、福島県の特産品の販売を伏見区の大学キャンパスで始めた。

計画的避難区域に指定された川俣町で震災前にとれたトマトを使ったレトルトカレーや、喜多方ラーメンなど約20種類。法学部3年の横田川好美さん(20)は「実家の静岡には浜岡原発がある。福島の農家の苦しみはひとごとではない」と大声でPR。3日まで続け、収益は被災地へ送る。

府庁（上京区）の食堂には、福島県産の野菜を使った特別メニューが登場した。初日は、キュウリやトマトを使った「野菜たっぷり棒々鶏(バンバンジー)」。7日まで、昼食時に50食限定で販売する。

京都市は、仙台市に職員1人を長期派遣した。これまで派遣した千人を超す職員は1週間から1カ月の短期だったが、仙台市の要望で来年3月まで滞在する。被災地の公民館や体育館などの修理に携わる。

（松川希実、堀田浩一）

2011年6月2日　朝日新聞

参加学生の「束ね役」

龍谷大ボランティアNPO活動センターの学生スタッフ、松野嵩さん(23)は、大津祭に参加する約40人の学生ボランティアを束ねる。香川県丸亀市出身で、「迫力のある曳山をひいてみたい」と昨年の祭りに曳き手として初めて参加した。2回生になった今年はもっと学生に祭りを知ってほしいとの思いで運営側にまわり、祭りの魅力を学内でアピールしてボランティア集めに奔走した。「事故を防いで祭りを盛り上げ、伝統を守っていきたい」。

2011年10月4日　朝日新聞

ボランティア入門盛況

被災地での装備、心構え学ぶ

GW控え各地で説明会

ゴールデンウイーク（GW）を前に、連休を利用して東日本大震災の被災地で支援に取り組みたいという〈ボランティア初心者〉向けの説明会が、各地でにぎわっている。必要な装備や被災者と向き合うための心構えを学び、被災地の状況やニーズも情報収集できるのが利点。主催者側は「事前の準備をしっかり整え、現地で熱意を生かしてほしい」と期待している。

被災地でのボランティア活動のあり方について熱心に耳を傾ける学生たち（25日、大津市の龍谷大瀬田学舎で）＝川崎公太撮影

龍谷大瀬田学舎（大津市）では25日、「復興支援ボランティアガイダンス」が開かれ、学生ら約60人が参加。福島県の災害ボランティアセンターで支援活動に加わった筒井のり子・社会学部教授が「体調を崩して被災地に迷惑をかけないように休養も取って」とアドバイスし、「被災者の声を聞かず、自分の判断だけで行動する人もいた。初心者は民間活動団体（NGO）などに参加する方が無難だ」と注意点も付け加えた。

参加した理工学部3年谷川大樹さん(20)は「友人が被災地へボランティアに行ったと聞き、『私も』と思ったが、相当の覚悟と準備が必要と痛感した」と話した。

大谷大（京都市北区）でも27日、被災地を訪れた教員らによる説明会を実施。立命館大（同市中京区）は「震災支援活動情報ネットワーク」を学内に設置、ボランティアの情報を学生に提供している。

一方、一般向けには、被災地での活動体験を聴く講座が関心を集めている。市民団体「シチズンシップ共育企画」（兵庫県尼崎市）が22日に大阪市北区で開いた催しには、会社員や学生ら約30人が参加。京都大3年堀彩香さん(21)が宮城県石巻市の避難所などで1週間、必要な物資の聞き取り調査を担当したことについて報告すると、参加者から「GWに行きたいが、短期間では役に立てないか？」「体力にあまり自信がないが、できることはないか」などと質問が相次いだ。

大阪ボランティア協会（大阪市）では、震災後から「災害ボランティア説明会」を9回開催。毎回、定員20人を超える参加者があるといい、担当のボランティアコーディネーター・白井恭子さん(28)は「惨状を見聞きして心を揺り動かされ、行動を起こそうと説明会に足を運ぶ人が多い。正しい知識を身に着け、無理のない支援を続けてほしい」と話している。

2011年4月26日　読売新聞

龍谷大生ら福島支援

NPOと協力 校内で物産品販売

大津　大津市瀬田大江町横谷の龍谷大瀬田キャンパスの学生が六日、学生が参加した福島県の物産品の販売をキャンパスで始めた。八日まで。

震災被害だけでなく、原発事故による風評被害もある福島県の復興支援について、龍谷大と学生が関西でできる方法を模索。大学が京都を中心に貧困や環境問題などに取り組むNPO法人JIPPOに呼び掛けて、福島県観光物産交流協会を通じて仕入れた物産品を初めて売ることにした。学生はボランティアとして五十人が販売を担当する。

喜多方ラーメンや会津地鶏カレー、手作りのあめやサブレなど十八品目が並んだ。初日は約百十人が購入した。買いに来た三年の林淳末さん(20)は「少しでも被災地の力になればと思って買った。みんなに配って福島のおいしさを伝えたい」と話した。

販売を担当した三年の谷川大樹さん(20)は「現地にはなかなか行きにくいので、関西にいながらでもできる支援として参加した。学生も応援しているというメッセージを被災地に届けたい」と活動への意欲を話した。（山田千尋）

福島の物産を販売する学生ら＝大津市瀬田大江町横谷の龍谷大瀬田キャンパスで

2011年4月27日　中日新聞

東日本大震災

支援活動準備は入念に

ボランティア 希望の学生に説明会

大津の龍谷大

東日本大震災の被災地で、ボランティア活動をしようと考えている学生を対象にした説明会が二十五日夕、大津市瀬田大江町の龍谷大瀬田キャンパスであり、学生六十人が参加した。（山田千尋）

学生から「ボランティア活動をしたい」との声が出ていることを踏まえ、大学が大型連休前に催した。

二十一～二十四日まで福島県に訪れていた筒井のり子教授（地域福祉）は「自分のやりたい活動が、被災者が求めている活動とは限らない。被災者の気持ちに寄り添いながら、独り善がりの頑張りをしないように」と呼び掛けた。

具体的には、事前準備としてボランティア保険に加入したり、マスクや食事などの持ち物、宿泊場所などを入念に確認するよう促した。

質疑応答では、男子学生が「被災者に何と声をかけたらいいのか」と質問し、筒井教授は「声をかけることを考えなくても、一緒に時を過ごすことで解決するのでは」と答えた。女子学生は「現地に行かないでここでの支援は何があるか」と尋ね、筒井教授は「それを考えるのも良いし、被災地の物産をインターネット上で購入するのも手」と応じた。

参加した四年宮崎航さん(二)は「連休中に行こうと思っていたが、考えを改めた。時機をうかがって、子どもと関わるボランティア経験を生かして、被災地の子どもが心から笑えるような活動を準備していきたい」と話していた。

ボランティア活動の説明を受ける学生ら
＝大津市瀬田大江町の龍谷大瀬田キャンパスで

2011年6月7日　中日新聞

people　ひと

街頭募金を行う
龍谷大学生
歌藤　智弥さん

「東日本大震災の復興支援義援金にご協力お願いします」

龍谷大学ボランティア・NPO活動センターの学生スタッフとして大学や街頭で募金活動を行い、学生や市民に協力を呼びかけた。

「震災翌日からすぐに何かしなければと仲間で話し合った。現地に行くことはできないが、僕たちにできることで被災地の力になりたい。託してくださったお金と心を届けられるように頑張りたい」

災害時の募金活動や活動希望者と支援先の連絡調整、地域が行う外国籍の子どもたちのための日本語教師ボランティアなどに積極的に参加する。「活動を通して何が必要なのか相手優先で考えることの大切さを学んだ。多文化共生といわれるが、互いを理解し気持ちを通わせることでより良い社会につながると信じている」。国際文化学部3年。

本願寺新報
hongwanji journal
4月10日（日曜日）
毎月1日・10日・20日発行

2011年4月10日　本願寺新報

私にできる

ボランティア

東日本大震災を通してボランティア活動の大切さをあらためて教わりました。「私にできること」からボランティアを始めてみませんか。何も特別なことではなく、日常生活を見直すと、私たちが今いるところで、できることがたくさんあります。身近なところで、いつでも、どこでも、「私にできるボランティア」を紹介します。
（協力／龍谷大学ボランティア・NPO活動センター）

やさしい言葉をかけよう

実際で語り合っていますか？ 自分の言いたいことだけを話して終わってしまい、会話が一方通行になっていませんか。相手の話にも耳を傾け、やさしい言葉をかけてみてはいかがでしょう。相手の立場に立って、一緒に話を聞くことは、相手の気持ちに寄り添うことに。特別なことではありません。家族や友達との何気ない会話にも、やさしい言葉をかけてみてください。思いやりの心をもって日々過ごしたいですね。

小さな行動から～1食で1円の募金を～

小さなことでも、コツコツと積み重ねていけば、やがては大きなかたになります。

募金のために、例えば、食事をするたびに1円ずつ貯金してみてはいかがでしょう。1日3食で3円。1カ月で90円、1年間で1095円。3人家族であれば3倍に、さらには、それぞれご近所や友人、知人に協力を呼びかけたら…。その数だけ個になって広がっていきます。

あなた一人で始めた行動も、仲間を誘い合うことで、活動の輪が広がり、日々だれかのことを思い合うことにもつながります。

楽しみながら

～思いの届く人へ～

活動していて楽しいという気持ちがないと長続きしません。あなたの趣味を生かしてみませんか。例えば、アクリル糸の毛糸で洗剤要らずのタワシや、ひざ掛け、マフラーなどを編んでみてはいかがでしょう。海外のお寺では、必要とされる時にすぐに渡れるよう、日頃から作り置きをしているそうです。

寒～いこの季節。外出する機会も減りますよね。そんな時に、編み物はおすすめですよ。

支援物資を届ける

年末の大掃除で、身の回りを整理していくと、使わないで保管していたものが案外多かったのでは。

被災地ではまだまだ支援物資が求められています。東北教区災害ボランティアセンター（3面に記事）のホームページや「本願寺新報」などから情報を集め、寄りの人とも声をかけ合い被災地へ届けませんか。種別ごとに梱包し、送付先の確認もお忘れなく。事前連絡なしに一方的に送ると、受け取る側が困ることになります。

物産展やチャリティーに参加

お寺や近所のスーパーマーケット、企業や行政などが行う物産展や復興支援のチャリティーイベントに参加することも、ボランティアです。積極的に出かけてみましょう。

ボランティア・ワンポイント講座

あなたのやさしさや思いやりの気持ちで、できることを行うことがボランティア活動です。あまり難しく考えず、身近なところに関心を持ち、これなら私にできるというものから始めてみましょう。

身近なことから

私たちの身のまわりを見直し、気が付いたことから始めてみましょう。

相手の気持ちになって

ボランティア活動は、ひとりよがりであったり、押しつけであったりしてはいけません。常に相手の気持ちを考えましょう。

無理をしないで継続を

無理をすると長続きしません。自分の生活のリズムを考えて計画を立て、無理な時は、はっきり断ることも必要です。

また、どんな小さなことでも相手との約束や秘密は必ず守ってください。ボランティアを長続きさせるコツは「楽しむ」こと。仲間と協力しながら和気あいあいと楽しんでください。

龍谷大学ボランティア・NPO活動センター

龍谷大学の目指す「実践」教育の一環として、2001年に設立。学生スタッフと教職員が協働して運営しています。京都・深草学舎、滋賀・瀬田学舎を拠点に、JTPOなどのNPOやNGOと連携し、町おこしなど地域に密着した活動や障害者支援、学内外におけるさまざまなボランティア活動を展開。また、東日本大震災の復興支援として、現地でのボランティア活動などを行っています。

龍谷大学生に聞く「ボランティアとは？」

横関つかささん
社会と向き合う、出会いの場。

平形駿さん
人との出会いが自身の成長に。

峰松優恵さん
自分の考えや人生が変わった。

宮岸孝奈さん
社会問題を知るきっかけに。

竹田伊織さん
人とのかかわりで、多くの気付きが。

2012年１月１日　本願寺新報

学生ボランティアが縁で龍谷大が東北物産展

龍谷大学ボランティア・NPO活動センターは東日本大震災復興支援プロジェクト・雄勝物産品販売「おがつ『店こ屋街』がやってくる！」を12月13日から３日間、同大学の深草、瀬田、大宮のキャンパスで順番に行った（写真＝大宮キャンパス）。

同大学は11月と12月の２回、ボランティアバスを運行し、学生たちが宮城県石巻市の雄勝地区で特産品の硯の原材料である硯石板を洗うボランティアを実施。小さな漁村の雄勝は、津波で商店がすべてなくなったが、11月19日に雄勝支所敷地内に仮設商店街「おがつ『店こ屋街』」をオープン。正式オープン前には海産物店が、感謝の気持ちをとお客さん第１号として学生たちを招き、交流。それが縁となり今回の物産品販売が企画された。

販売した商品は「焼きのりととろろ」「しばわかめ」などの500円前後の海産物をはじめ、硯や小物雑貨など。販売員は学生ボランティアが務め、講義の空き時間だけでも協力できればなどと、現地ボランティア活動に参加した学生ら50人が入れ替わりながら務めた。NHKのニュースで紹介されたことから大宮学舎での販売（15日）には近隣の府県からも来客があった。滋賀県長浜市から訪れた63歳の女性は「ニュースで知った。震災は人ごとでない。少しでも支援になればと」と語る。

教職員と協働して同センターを運営する学生スタッフの片岡華絵さん（３年）は「震災を忘れないをキーワードに関西でできることは何かと考え企画した。被災者の方々のことを思い訪れてくれる方々との交流がうれしく、励みになる。今後も現地に行けなくてもできるボランティア、被災者支援を企画していきたい」と思いを語った。

私たちにできることを

販売員を務めた４年生の吉田明日香さんと石原竜太さんは、11月の雄勝でのボランティアに参加し、硯石板を磨いた。活動後も被災地のことを思っていた２人は、この企画を知り、少しでも雄勝の支援につながればと参加。

吉田さん（写真右）は「被災地から帰ってきて、その後は何もしないのでは意味がなくなってしまう。こうして周囲の人に知ってもらい、興味をもってもらうことが大切。被災地に行けなくても、商品を買うことも立派なボランティア」、石原さん（同左）は「テレビや新聞で見聞きすることと、実際に被災者の方と交流して知ることが、まったく違っていることもある。現地に行き、自分で見聞きすることも大切。私にできることがあれば参加していきたい」と思いを語った。

2012年１月10日　本願寺新報

新聞以外にも以下のメディアにおいて、本学学生や職員が出演し、ボランティア・NPO活動センターの活動を紹介しました。

日　付		マスコミ名	番　組　名
2011年	3月18日（金）	NHK京都放送局	ニューステラス関西
	6月6日（月）	びわ湖放送	キラりん滋賀
	9月16日（金）	NHK京都放送局	京いちにち　被災地と京都 「学生たちが見た被災地」
	12月14日（水）	NHK大津放送局	おうみ発610
	12月15日（木）	エフエム滋賀	ハッピー！内コーナー 「平和堂マイデイリーライフ」
	12月16日（木）	NHKラジオ第1	ラジオ深夜便
	12月16日（木）	NHK大阪	おはよう日本
2012年	2月11日（土）	NHK大津、エフエム滋賀、および県内コミュニティーラジオ放送局3社	防災ラジオ滋賀2012

発　行　日　2012年6月10日
発行・編集　龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター
印　　刷　㈱双林印刷社

龍谷大学ボランティア・ＮＰＯ活動センター

■　深草キャンパス
〒612-8577　京都市伏見区深草塚本町67
TEL　075-645-2047　FAX　075-645-2064
・京阪本線「深草」駅下車、西へ徒歩約３分
・JR 奈良線「稲荷」駅下車、南西へ徒歩約８分
・京都市営地下鉄「くいな橋」駅下車、東へ徒歩約10分

■　瀬田キャンパス
〒520-2194　大津市瀬田大江町横谷1-5
TEL　077-544-7252　FAX　077-544-7261
・JR びわこ線「瀬田」駅下車、帝産バス約８分

URL　http://www.ryukoku.ac.jp/
E-MAIL　ryuvnc@ad.ryukoku.ac.jp